

日ラグ協発 20-084

2020年7月27日

関東ラグビーフットボール協会

理事長 大原 俊一 様

関西ラグビーフットボール協会

理事長 松原 忠利 様

九州ラグビーフットボール協会

理事長 御領園 昭彦 様

ルーリング 2020-1 「競技規則 8.14」

(競技規則の確認)

専務理事承認済・押印省略

(公財)日本ラグビーフットボール協会

専務理事 岩渕 健輔

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、ワールドラグビーよりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

競技規則 8.14 には以下のように記されている：

「プレーヤーは全員、キッカーがボールを蹴ろうとして近づき始めるまで、自チームのゴールラインまで下がる。キッカーが近づき始めたら、ゴールを阻止するために、チャージしたりジャンプしたりしてよいが、その際、他のプレーヤーに体を支えてもらったりしてはいけない。」

ニュージーランドラグビー協会は、「ボールを蹴ろうとして近づき始める (原文: “begin to approach to kick”)」が意味することについて、解釈の明確化を要請する：

先日行われたスーパーラグビー アオテアロアの試合において、コンバージョンがチャージダウンされた (第5節 クルセイダーズ対ブルーズの 55分 35秒の場面)。キッカーが、ルーティーンの一環としてボールへ向かって前進する前に後ろへ数歩下がった時にクルセイダーズのプレーヤーがチャージし始めた。

キッカーがどの方向であれ動き出したらずぐにキックへのチャージが可能となるというのが多くのレフリーによる一般的な解釈だが、「後ろへ下がる(**stepping back**)」という表現は「近づく(**approach**)」と同じ意味ではないため、この解釈とはならない。

ニュージーランドラグビー協会では、どのレベルのラグビーにおいてもすべてのレフリーが用いることのできる明確なルール解釈を希望する。

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング:

今回の事例においてレフリーが行った判断は正しい。キッカーがどの方向であれ動いた瞬間、「ボールを蹴ろうとして近づき始めた」とみなされる。このように解釈する理由はわかりやすさであり、そうでなければ、キッカーがいつ動き出したか、また、どちらの方向に動き出したかを、レフリーが判断しなければならなくなってしまうからである。また、プレーヤー、マッチオフィシャル、観客による誤った解釈を招いてしまう可能性もある。

以上